

「商業統計調査」に見る 福井の小売業・卸売業

先般、福井県の平成16年度商業統計調査の確報値が発表された。商業統計調査は商業の客観的な情勢を見るための重要な指標であり、その結果は県内の商業の姿を現していると言つてよい。

当所では、平成16年調査結果および過去の同調査結果を基に、福井県内および福井市内の商業（小売業・卸売業）の姿を探った。

※記事中のデータは「平成16年商業統計調査（確報）福井県情報政策課」と過去の同調査結果を基に、当所で行った分析を行ったもの。なお調査の数値は市町村合併前把握されたものであり、福井市については「旧福井市」エリアでの数値を採用している。

卸売業の状況

減少から横ばいとなる

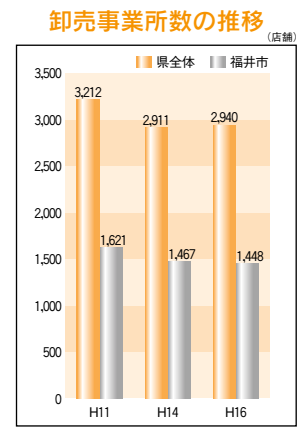
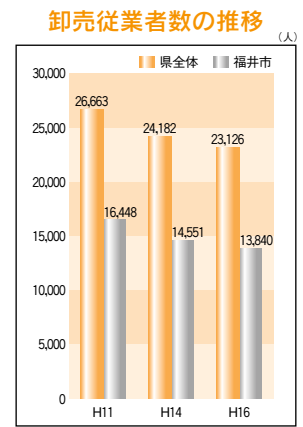
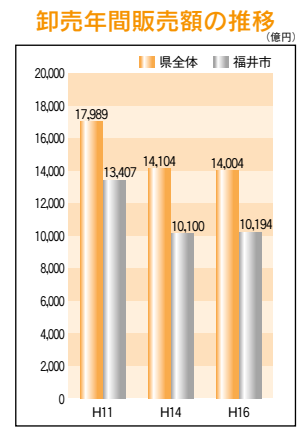
平成16年の県全体の卸売事業所数は前回（平成14年）に比べてわずかながら増加した。これに対し、福井市は1・2%の減少となっている。また、従業者数は県・市とも減少となった。年間販売額は、県全体では0・7%微減したものの、福井市では1・0%増加した。その結果、県全体の年間販売額における福井市の割合は72・9%となった。

事業所数、従業者数、年間販売額の推移を見るかぎり、県全体および福井市の卸売業は、近年続いた減少傾向から、横ばいに転じたかと判断してよい。従業員削減などを進めながら、なんとか事業所及び販売額を維持しようと努力する姿が読み取れる。

小売業の状況

依然として厳しさが続く

(1) 事業所総数に減少に歯止めからず、次に小売業に目を向けてみると、県全体の事業所数は前回に比べ4・3%の減

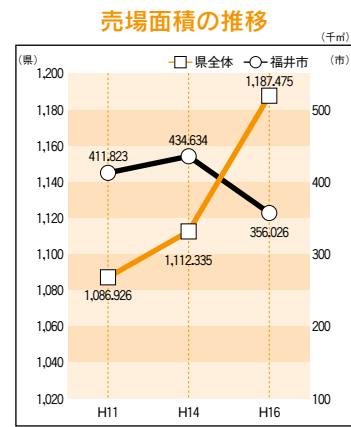


県全体・福井市の小売年間販売額

産 業 分 類	県 全 体			福 井 市		
	平成14年	平成16年	前 回 比	平成14年	平成16年	前 回 比
	実数 (万円)	実数 (万円)		実数 (万円)	実数 (万円)	
小 売 業 計	90,518,125	89,567,001	▲1.1	37,271,006	38,174,960	2.4
各種商品小売業	7,330,564	7,038,373	▲4.0	4,562,585	4,095,678	▲10.2
織物・衣服・身の回り品小売業	7,340,988	6,516,217	▲11.2	3,659,534	3,265,982	▲10.8
食料品小売業	29,344,169	28,649,339	▲2.4	9,502,497	9,325,484	▲1.9
自動車・自転車小売業	14,313,465	14,759,784	3.1	6,495,365	7,406,924	14.0
家具・じゅう器・家庭用機械器具小売業	8,489,521	8,005,883	▲5.7	3,980,475	4,115,223	3.4
その他の小売業	23,699,418	24,597,405	3.8	9,070,550	9,965,669	9.9

(2) 年間販売額、福井市は横ばい、県全体の小売業年間販売額は前回比1・1%の減少となったのに対し、福井市は2・4%増加した。しかし、「自動車小売業」を除く年間販売額では、県全体が1・8%の減少、福井市が前回とほぼ同じ販売額であり、福井市の伸びで「自動車小売業」が大きく寄与していることがうかがえる。

分類別に見ると、「織物・衣類・身の回り品小売業」で県全体、福井市とも大



(3) 売場面積、県全体では増加、福井市は大幅減少、県全体の小売業の売場面積は1・187・475㎡で前回比6・8%増加したが、福井市は18・1%の大幅な減少となった。

(4) 大規模小売店舗

県内の大規模小売店舗は前回に比べ6店舗増加した。年間販売額は、4・4%の減少となったが、小売業全体の32・2%を占めている。売場面積は485・336㎡で、3・2%の増加となった。

一方、福井市内の大規模小売店舗は前回と同数であったが、小売テナント事業所数は15%減少した。年間販売額は7・1%減少、売場面積は5・7%減となった。特に売場面積では、ピアの閉店が大きく影響しているものと思われる。大規模小売店舗が福井市全体の小売業に占める年間販売額の割合は41・2%に達しており、売場面積については57・3%を占めている。

大規模小売店舗の状況

県 全 体	大 規 模 小 売 店 舗 数	大 規 模 小 売 店 舗 内					
		小売事業所数 (店)	従業者数 (人)	年間商品販売額 (万円)	その他の収入額 (万円)	売 場 面 積 (㎡)	
県 全 体	H16	130	780	10,565	24,121,959	184,445	485,336
	H14	124	881	11,347	25,222,504	309,245	470,353
	増減率	4.8%	▲11.5%	▲6.9%	▲4.4%	▲40.4%	3.2%
福 井 市	H16	47	329	4,366	10,894,044	141,126	204,123
	H14	47	387	5,040	11,722,673	214,807	216,402
	増減率	0.0%	▲15.0%	▲13.4%	▲7.1%	▲34.3%	▲5.7%

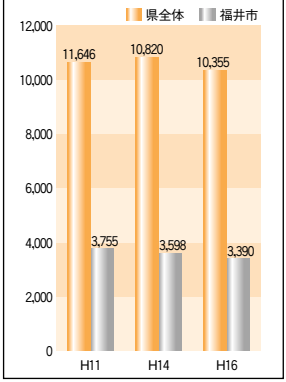
このように県内の商業をデータで見ると、卸売業の健闘と、小売業の厳しさが対比されるような形となった。景気回復が伝えられる中であって、商業の回復はまだまだという状況であろう。

今回ご紹介した分析結果については、より詳細な内容を報告書にまとめております。報告書については、福井商工会議所経営支援課 (TEL: 0776-3318288) までお問い合わせ下さい。

立地環境特性別の事業所数

特 性 別 分 類	事 業 所 数		
	平成14年	平成16年	
	実 数	実 数	前 回 比 (%)
小 売 計	10,820	10,355	▲4.3
1. 商業集積地区	3,587	3,367	▲6.1
1-1 駅周辺型	758	634	▲16.4
1-2 市街地型	885	836	▲5.5
1-3 住宅地背景型	918	845	▲8.0
1-4 ロードサイド型	809	855	5.7
1-5 その他	217	197	▲9.2
2. オフィス街地区	939	870	▲7.3
3. 住宅地区	2,870	2,734	▲4.7
4. 工業地区	970	1,000	3.1
5. その他の地区	2,454	2,384	▲2.9

小売事業所数の推移 (店舗)



事業所数の動向を立地環境特性別に見てみると、特に「駅周辺型」での減少が際立っている。また、「市街地型」なども減少しているのに対し、「ロードサイド型」が増加しており、依然として郊外化の動きが止まっていないことがわかる。

少となった。福井市も前回より5・8%の減少で、小売業を取り巻く環境の厳しさが続いていることがうかがえる。